仮面ライダービルド
~MASKD RIDER REMAKER~

41ayumi

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

壊す者が存在するのであれば、また、創り変える者がいる訳だ……。

それこそが…〝リメイカー〟って野郎さ…。

……エボルトより

目次

プロローグ ―― 1
第一話　改変 ―― 6
第二話　叶えてやる ―― 11

プロローグ

いつかの日…

必ず其れは、帰ってくる。

〝創り変える者〟は、必ず帰ってくる。

……

キルバスを倒し、エボルトが消えてから数日
最近は何も起こらない…。つまり平和だ…。
「……。」
俺の名は〝桐生　戦兎〟…新世界の創造神様…じゃなくて！
普通の天っ才物理学者である！

今はお暇な時間。何も考えず、実験室でゆったりとしている。
「ふぅー……にしても色々あったよな…」
過去の記憶はロクなものが無いが…。
様々な人々と出会い、〝ラブアンドピース〟を目指し、戦い続けた日々も…
今では懐かしく感じる。
「…〝ブラッド族〟は本当に滅びたのか…?」
今の疑問はただそれだけ。
〝ブラッド族〟…これまでの出来事…それ等全ての元凶。
エボルトと伊能達…そしてキルバス。
エボルトは伊能達と自分しか生き残っていないと言いながら…
キルバス…エボルトの兄が生きていた。
もしかすると…まだ生きてるブラッド族がいるのでは?
「…仮に生き残りがいても…きっと大丈夫だ…。」
皆がいるんだ。今は…
俺は立ち上がり、今開発中の新たな〝トリガー〟の設計図を見る。
「コイツさえあれば…十分な戦力になるな…。」
「テンションアゲアゲフッフー!　だぜ!」

……

宇宙空間

「……ハハ…。」

そこには〝星を見下げる者〟がいた。
黒を基調にしたボディに、金のライン。
其れは、どことなく、〝鷹〟と〝マッドローグ〟を連想させていた。
「この星が…エボルトもキルバスも制圧出来なかった星…か…。」
其れは、地球を見下げ…
「〝平和〟にせねば……」
「どんな手を使っても…」
「〝宇宙〟に〝平和〟を齎さねば…。」

〝狂った〟ラブアンドピースを望む異郷人は、

地球に降り立とうとしていた。
その異郷人の名は…
〝仮面ライダーリメイカー〟
「全てに…愛を…」
そして…それは降り立つ…。

……

別の惑星

「チッ！　……アイツが生きてたのか…。」
彼こそが、エボルト。
「ヤベえなぁ……これはまた、地球に戻らなきゃだな…。」
エボルトは、珍しく恐怖している。
人の感情を得たからとか、そんな事だけじゃない。
それ程にまで、〝リメイカー〟はヤバイ存在だからだ。
「どうする？　アイツまで生きてるとなると…」
「しょうがねぇ…先ずは様子見だな…。」
彼は先ず、見定めから始めるようだ。

相手は、〝リメイカー〟…慎重に、見定め無ければならない。
「兎に角地球へ向かおうか…。」
彼もまた、ブラックホールを作り上げ、そこからワープしようとするが…。
「!?」
「そういう事か…！　〝リメイカー〟の奴め…！」
エボルトが来るのは…まだ後だろう…。

第一話　改変

歪でも構わない

平和を齎さねば

ｎａｓｃｉｔａ　地下室

「どうしようか…」

桐生戦兎は困っていた。

何故か？　それは新開発のトリガー何故か発動しないからである。

（どうしてだ？　まだ何か足りない…？）

「おーい！　戦兎！」

「うわ、筋肉バカだ…。」
「誰がだ！」
コイツの名は〃万丈龍我〃。戦兎と共に、エボルトとの戦いに勝った、〃新世界の創造者〃でもある男だ。
ここ最近、その兄であるキルバスも打ち倒している。
「ん？　そりゃ何だよ？　新しい発明か？」
「その通り！」
「まだ未完成なんか？」
「そうなんだよなぁ…」
このトリガーが、どうすれば発動するのか、それが分からない。偶然出来上がった為、何が必要なのかすらも分からない。
「お前の細胞でも使ってみるか？」
「洒落になんねえよ！」

まだ、近づかない。――

地球　何処かの場所

「ああ…」

リメイカーは、降り立った。

「平和……あれ？　ここ…ああ、地球か…。」

リメイカーは、〝何かがおかしい〟。それはいつもの事だったのか、それは分からない。

リメイカーは歩き出す。

歩いた、後ろ側には、

〝地球に、現存しない筈の植物が生えていた。〟

「ああ…平和…だよな？」

彼には、宇宙が汚く見える。

何故か？滅びが続いているからだ。

〝自身の種族〟もそうだからだ。星を滅ぼす事は、やってはならぬ事だと、分かっている。

だから今も、〝星を創り変えているのだから〟

「……。」

リメイカーは、人間の姿になる。その姿は、黒いスーツに、黒いアシンメトリーヘアーの姿だ。
彼は、その目をギラつかせ、月を見上げる。
「〝ブラッド星〟のより…綺麗だな。」
彼は、月に見惚れていた。
その月光は、彼を照らす。その影が、人でない事を分からせる。
「救いを…。」
それだけを告げ、彼は、その場から消えた。

宇宙空間
「リメイカーの野郎…ブラックホールを塞ぎやがったか…。」
エボルトは、どうしようか迷っていた。
自力で地球に行けば、補給が効かない。それに、力がそうなれば出にくい。
宇宙は広い。エネルギーもその分減りやすい。
「しょうがねぇ。無人の惑星を吸い上げながら、地球へ進むか…。」
〝蛇〟は地球へと歩み寄る。
今回もまた、人間達を助けるために、進みよる。

リメイカーは、彼の中では…
キルバス以上の存在なのだから。
（あの野郎だけは滅ぼさねえと…。）
（あんなバケモン…。）
エボルトは、恐怖する。

第二話　叶えてやる

救世を望め

悪魔よ

「…はぁ…」

夜の街に、一人の男が、溜息がつく。

「死にたい……。」

自殺願望を募らせた、サラリーマンだった。

家に帰れば相手にされず、会社に行けば強制労働。

希望は、無かった――

「――本当にそうか？」
「え？」
そこに、黒いスーツを着た、若い男がいた。
「……」
黒い男は、サラリーマンを見続ける。
「死にたいんだ……ほっといてくれ…。」
涙を流しながら、そう懇願するサラリーマン。
「お前が…滅ぼしたいと思ったのは何だ？」
「会社…家…それがどうしたんだよ…」
「〝願い〟は叶えてやる…。」
そう言うと、男はいつの間にか消えていた――
「え？」
困惑するしか無かった――

「ここか…」
黒い男は、その会社のビルにいた。

「……」

黒い男は、〝赤い機械の様な物〟を取り出す。

『エボルドライバー！』

機械から発せられる渋い声が、その場に木霊す。

『イーグル！　ライダーシステム！　エボリューション！』

黒い男は、その機械のレバーを回す。

『Ａｒｅ　ｙｏｕ　ｒｅａｄｙ？』

「変身……」

『イーグル…イーグル…〝メサイヤイーグル〟！』

『フッハハハ！』

「……」

黒い体に、金のラインが走ったその姿は、まるで〝鷹〟を連想させる。

「〝リメイカー〟…フェーズ１」

そして、手を伸ばした。そうすると

「フンッ!!」

――ビルは、植物に覆われてゆく、そして……

「……!!」

拳を丸める。そうすると突如、ビルは、〝植物〟に押し潰されてしまった。
「一つ目は……終わった…。」
「二つ目だ…」
瞬間移動をして、リメイカーはその場を去る。
悪魔なのか？　それとも……

「くそう……。」
エボルトは、未だに地球に辿り着いていなかった。
リメイカーの妨害により、地球に辿り着くどころか、能力の一部すら使えないと言う、酷い状況になっていた。
「どうしたもんか……」
エボルトは考える。
かつて、キルバスと戦う前の、〝ジーニアスの力を模倣した究極体〟になれば話は別だ。
だが、リメイカーは、恐らくそれ以上を行くだろう。
奴は常に進化する。

「ブラッド族の突然変異……か…」

過去に、キルバスは…リメイカーを殺そうとした。

ブラッド星――

「こいつはぁ……殺すぞぉ！」

「いいのかキルバス。戦力が減るだろう？」

「こいつの力を見ただろう!? コイツは間違い無く〝俺以上のバケモン〟になるぜ!?」

（……後の脅威になるとはな…。）

やはり、恐怖する。